

## 公益財団法人 日産厚生会 玉川病院

「二子玉川」は「ニコタマ」とも呼ばれる高級住宅地。日産厚生会玉川病院は、二子玉川の閑静な住宅街にあり、付近に門前薬局の開設はない。業界は医薬分業を進めているが、玉川病院は物理的に院内調剤を続ける必要があったようだ。

薬剤科科長・松本雄介先生に話を伺った。

### ●薬剤師が患者さんを問診

「大規模病院と中規模病院では組織形態が違います。大規模病院の縦割りに対し、中規模病院は調剤から病棟業務までローテーションをこなします。医師をはじめ、職員の顔が分かる規模（職員数約600名）はこの病院のいいところでしょう。

薬剤師にとっては他職種との連携をスムーズに行うことができ、また全般的な業務経験を積ませることができる規模であると考えています。

薬剤師の病棟配置が医療安全の面から重要であることが認められて、薬剤師の仕事の領域が広がっています。病棟での仕事では服薬指導のみならず、重篤な患者さんに対する輸液量の確認など安全管理や医療者に対して医薬品の情報提供を行っています。業務拡大の反面、責任も大きくなっています。その責任に応えるように薬剤師は成長しなければなりません」という。

当院の取り組みとして医師の診察前に、薬剤師が患者さんの問診を行っています。情報を収集して、がんや慢性腎臓病などに関する処方設計支援を行い、薬剤師としての責任を果たしたいと考えています。

### ●責任を果たすために教育・研修を充実

病院薬剤師の仕事は、今後さらに広がっていくことが考えられ、私たちがその道筋をつけなければなりません。とくに教育は、患者さんの安全管理に直結します。例えば、フィジカルアセスメント教育は5年後の実現を目標にしており、副作用を発見する手段にしていきたいと考えています。新人薬剤師は、10カ月で病棟に上がるため調剤や注射剤を勉強します。また、地域の病院と連携して合同勉強会を行い若手薬剤師のスキルアップにつとめています。

また病院薬剤師との連携だけでなく、町中にある保健薬局の薬剤師とも連携を行い、研修を合同で開催しています。連携、情報交換、勉強会を通して薬剤師のスキルアップを行うと同時に、地域ぐるみで患者を支える体制を整えることを模索しています」という。

大規模病院にはないきめ細かな対応ができる中規模病院。そんな印象を得た。

薬事法の改正で、外来調剤について説明（服薬指導）が必要になった。患者さんとの距離がさらに近づくことになる。

現在、玉川病院では薬剤師を募集している。



話 / 薬剤科 科長 松本 雄介先生  
(北里大学薬学部出身)



調剤(散剤)



処方監査



病棟に払い出しするカートの管理



## ●玉川病院薬剤科の取り組み

薬剤科は、医師の診断前に患者さんの問診を行っている。

近年は飲み薬(内服薬)の抗がん剤が多くなり、患者さんのQOLを高め、がんの外来治療を可能にした。しかし、外来診察では医師の診察時間が短いのが欠点。診察時間内に患者情報を把握するのは難しく、副作用を見逃す可能性もある。

そこで薬剤師が「薬は飲んでいるか」「副作用はないか」「皮膚に異常はないか」「辛いことはないか」「検査値をみて治療を継続していいか」「下痢止めや嘔吐止めなどの対策は不要か」などを確認する。

薬剤師(がん薬物療法認定薬剤師)の立場で、抗がん剤を減らした方がいい、抗がん剤を休んだ方がいいなどの提案を医師に行う。患者さんのメリットを考えた取り組みは2年が過ぎた。

病院長の中嶋先生も「薬剤師がいてくれて助かった。そんなヒヤリハットの事例がたくさんあります」という。



病棟活動



病棟活動(ナースセンター/中央が薬剤師)



透析センターでの活動(透析療法で用いる複数の薬剤の処方管理、服薬指導にあたる)



## ●がん薬物療法認定薬剤師

日産厚生会玉川病院薬剤部

小倉 敬史さん

(北里大学薬学部出身)

必要とされる病院薬剤師になるには、自分はどうすればいいかを考え、その方法が「がん薬物療法認定薬剤師」資格の挑戦でした。その勉強は初め

て学ぶ内容であり、専門医が勉強するテキストとの格闘でした。

知らないことがあまりにも多いので、医師に「教えてください」とお願いしました。先生方は、丁寧に教えてくださり、先生の治療薬に対する考え方に触れることもできました。

私の勉強ぶりをご覧になり、先生方との関係も一段と近づいたように感じます。

私の病院は中規模病院ですから大きくも小さくもありません。先生との距離が近く、「どうしようか?」という初期の段階からアドバイスを求められます。私も勉強していなければ期待に応えることができません。勉強して得たもの。患者さんの治療に役立ち、私にはやり甲斐となってかえってきます。

## ●日産厚生会 玉川病院の概要

○病床数/389床

○診療科/内科、呼吸器科、循環器科、消化器科、神経内科、リウマチ科、小児科、外科(ヘルニアセンター)、呼吸器外科(気胸センター)、肛門科、整形外科(股関節センター)、脳神経外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科(リハビリテーションセンター)、歯科、麻酔科、放射線科、人工透析科(透析センター)、検診科、東洋医学科

○外来患者に対する院内処方を実施

○薬剤師数/24名(さらに募集中)

